

## 2 評価の分析（結果の概要）

### （1） 児童生徒アンケート

設問に対して肯定的評価が多く、特に「学校での生活は楽しいですか。」「学校の勉強はわかりやすいですか」「こまった時、先生はあなたの話をきいてくれますか」「先生は、わかりやすく話をしてくれますか」「学校の給食は毎日おいしく食べていますか」の設問に対して肯定的評価が98%以上になっている。すべての項目で昨年度より肯定的評価の割合が増加している。

寄宿舎は、すべての設問に対して肯定的評価が90%以上となっている。

以上の調査結果から、学校生活について、児童・生徒は概ね満足していると捉えられる。

### （2） 保護者アンケート

多くの設問に対して、肯定的評価の割合が90%以上である。「いじめのない学校生活づくり」については、昨年度と比較すると15%増加している。「地域社会や関係機関と連携し、充実した教育活動や支援を実践していますか」の肯定的評価の割合が86%であった。

感染症の影響が少なくなり、校外の学習や交流及び共同学習を今年度は実施したところである、今後も継続して地域社会や関係機関と連携した教育活動の推進を図っていきたい。

寄宿舎については、肯定的評価の割合が90%と昨年度と同様の高い評価をしていただいた。

自由記述からは、教職員の言動や対応、情報提供の仕方等についてご指摘いただいた。

### （3） 教職員アンケート

設問項目の多くは、肯定的評価の割合が90%以上と高く、「学校と保護者の連携による教育活動の充実」と「保護者・関係機関との十分な共通理解による進路実現」では、肯定的意見の割合が高く、児童生徒を中心に、保護者と教職員が連携して教育活動に取り組んでいくことの職員の意識が確認できた。

一方、「働き方改革の取り組み」については、肯定的評価が70%となっており、教職員の働く環境を改善していくことが今後の課題である。

働き方改革の取組の一つとして、ノー残業デーを設定し取り組んでいるところであるが、時期によって業務が重複し多忙化が生じるなど、年間を通しての取組が難しい状況もある。

業務の見直し等に行い、働く環境の改善を図っていきたい。

### （4） まとめ

本校の教育活動については、教職員、保護者のアンケート評価から、児童生徒に対して適切に指導・支援をしていると評価できる。また、そのことが児童生徒の主体的な学習活動や寄宿舎生活に結びついているものと考えられる。

保護者からの評価は全体的に高評価であるものの、御意見等については、全職員で情報共有を図り、児童生徒への更なる適切な指導・支援となるように努めていきたい。

また、教育活動の充実のために、教職員が働きやすい職場環境への改善を図っていきたい。

さらに、学校教育目標の「一人一人が光り輝き、心豊かにたくましく生きる人間を育てる」の達成に向けて、主体的に活動できる指導・支援を実践するとともに、実践した教育活動等の情報発信に努めていきたい